

石のベンチ設置

作左衛門が求めた「人を思いやる心」を広めようと「愛・夢・緑」の文字を刻んだ石のベンチを設置しました。「愛」は兄弟愛ないし人類愛を、「夢」は希望（願い）を、「緑」は樹木や森林を表します。「愛・夢・緑」の一字を取って「あゆみ」となりますが、地域への想いを込めて三河弁から「あよぶ」と名づけた小さな福祉を始めます。

この石のベンチは額田産（岡崎産）自然石で、大きさは上辺30〜50センチ、高さ40センチくらいです。

設置場所は、六ツ美西部学区の事業所の庭先、公民館、こども広場、神社境内等です。現在、十五か所に設置されています。

皆さんは、この石のベンチを見かけたら腰をかけてくつろいでください。また、友達と一緒にしたら心行くまで話し合ってください。



赤渋町の御鋳神社境内の石のベンチ



石のベンチの説明板（西部小）

愛・夢・緑の石のベンチ設置の思い出

近藤 幸男

本多作左衛門が求めた「人を思いやる心を次の世代へ」の願いを込めて、愛・夢・緑の文字を刻んだ石の設置の事業をしました。

名称を皆さんと共に「あよぶ運動」と呼び続けていこうと思つて作りしました。

この石を見かけたら、腰をかけ自由にくつろぎ、小さな福祉を皆様と共に大きく育てていきたいと思ひます。